

## 知事はヒバクシャ国際署名に署名を 被爆者行脚



2018年度の被爆者行脚が10月24日、愛知県を訪問して県と話し合いを持ちました。この話し合いには、わしの議員が同席しました。

全市町村を訪問する被爆者行脚は、現在では愛知県のみとなっています。

被爆者行脚は県に対して、ヒバクシャ国際署名への賛同、非核自治体宣言を行うことなど、8項目の要請を行いました。

参加した被爆者の人達は、「20人の知事と県内の23市町村長がヒバクシャ国際署名に署名している」「どうしてもサインしてほしい」「何でこんなに長い間苦しまなければならないのか。被爆者はいつまで苦しまなければならないのか。真剣に取り組んでほしい」と切実に訴えました。

わしの議員は、「共産党県議団は国際署名に賛同してほしいということを本会議で3回取り上げた。県は、国際情勢があるということで賛同せず、慎重な対応が求められるという答弁だった。あきらめずに、絶対に核兵器をなくすことを求めている」と発言しました。

## 同和問題、障害者雇用の問題など 県に要望 愛知地域人権連合



愛知地域人権連合は10月29日、県との話し合いを持ちました。この話し合いには、わしの議員、

しもおく議員が同席しました。

話し合いは、①同和問題、②教員の障害者、難病患者の採用問題、③化製場(食用肉を屠殺する際に生じる畜産副産物を主な原料とする工場、あま市・清須市にある)問題、④高齢者の介護問題、⑤高校のエアコン設置問題等について重点的に行いました。

わしの議員は、「重要な課題が話し合われた。要求が実現されるよう県議団としても頑張っていきたい」とあいさつしました。

## 障害者雇用問題について教育委員会 から聞き取り

「障害者水増し愛知県教育委が最多 698人雇用、実際は306人」と報道されたことを



受け、日本共産党愛知県議団は10月29日、障害者雇用について県教育委員会から聞き取りを行いました。

教育委員会は、「意図的な水増しではなく、悪意はなかった」「事務的な不手際があったことは事実。申し訳なかった」と述べ、今後の対応として、①正規職員の採用試験における障害者枠の新設(20年度～)、②期限付き任用講師の採用(19年度～)、③職域拡大のためモデル事業を研究・検討する(19年度～)と説明しました。

県議団は、「今後は不手際がないように、今回のことを教訓に改善してほしい。障害者の働く権利を守り、障害者雇用拡大へ力を尽くしてほしい」と要望しました。

## 12月議会(12月3日～20日)の主な日程

ぜひ、傍聴にお越しください

12月3日(月)10時～本会議(知事提案説明)

12月11日(火)13時～健康福祉委員会(わしの議員)

12月11日(火)13時～振興環境委員会(しもおく議員)

12月12日(水)13時～振興環境委員会(しもおく議員)

12月20日(木)10時～本会議(討論を予定)